

(様式1)

# 視 察 報 告 書

令和7年6月25日

鳥取市議会議長 星 見 健 蔵 様

鳥取市議会文教経済委員会  
委員長 石田 憲太郎

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

## 記

<b>1 期 間</b>	令和7年5月12日から令和7年5月14日まで
<b>2 派 遣 先 及 び 視 察 ( 調 査 ) 内 容</b>	<p>&lt;りそなコエドテラス&gt; ○りそなコエドテラスについて（施設見学）</p> <p>&lt;富山県南砺市&gt; ○市立学校におけるチーム担任制の導入について</p> <p>&lt;長野県長野市&gt; ○鳥獣被害対策とジビエ加工センターについて</p>
<b>3 派 遣 委 員 の 氏 名</b>	石田憲太郎、中山 明保、柳 大地、水口 誠、金田 靖典、 西村 紳一郎、長坂 則翁、砂田 典男
<b>4 委 員 会 所 見</b>	別添のとおり
<b>5 参 加 者 所 見</b>	別紙のとおり

りそなコエド テラス	<p>○りそなコエドテラスについて（施設見学）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本市も「二核二軸の都市構造」を示し取り組んでいるが、現状は人口減少、少子高齢化が進展しており、また事業所は減少、空き家（空き店舗）が増加している現状の中で、現在鳥取駅周辺の再整備計画が進められている。今後まちづくりの観点を含め、まちのにぎわい創出を強力に推進する必要がある。</li><li>・館内を利用したイベント開催を通じ、地域の豊かな食や歴史ある文化をアピールすることで、新たなブランディングや企業間コラボレーション、生産者や加工業者との連携、そして地域文化の保存と継承に貢献している。</li><li>・にぎわい創出として、屋外イベントスペースやテラスを活用し、観光客と住民が楽しめる拠点づくりを実施している。本市に相当する建築物は見当たらないが、現在進めている駅周辺整備に伴う中心市街地のにぎわい創出の取り組みに必要な視点だと感じた。</li><li>・埼玉県指定銀行である埼玉りそな銀行より出向した職員が副館長を務めるなど、埼玉りそな銀行が中心で事業化している印象を受けました。起業の際の融資などスムーズにいくと思われ参考になった。</li><li>・創業スタートアップ支援のための共創プラットフォームは参考になる。</li><li>・市場が縮小していく中、銀行自らが先行投資を行い、地域と共に取引先を育てていく形は、以前視察を行った浜松信用金庫が運営するFUSEの例とも重なる。</li><li>・若き起業願望を持つものには、400年の時空を体現できながら、近未来の創造を掻き立てられるだろうなという空間を感じた。その中心に、渋沢栄一。鳥取市でも、その空間を一部でも体現できればおもしろいと思った。</li><li>・本市でも、令和7年度当初予算にまちなかビジネス・コミュニティ拠点事業費が計上された。本事業には、中心市街地の再生や企業誘致、起業、創業支援などのための拠点施設を遊休施設の改修により整備し、併せて同施設への企業誘致のプロモーションを行う予算が含まれている。鳥取駅周辺再整備と連動してこの拠点を整備することにより、起業や創業を目指す若者を呼び込む流れをつくり、周辺のエリアに広がることを期待している。</li></ul>
---------------	---

富山県南砺市

○市立学校におけるチーム担任制の導入について

- ・鳥取市で「チーム担任制」を導入するとなれば出来る学校に限られるかもしれないが、本市でも教員不足が心配されているため、それを補う意味でも出来る学校から取り組みをしてみてもどうかと感じた。
- ・南砺市では、小規模小中学校が多くあり、建設時より教室に隣接されている廊下部分がかかなり広く設置されていた。そのスペースで複数のクラスが一堂に授業を行うことが出来るような構造になっていた。本市では考えられない構造であった。
- ・南砺市ではチーム担任制の導入に併せ、既に「教員の就業時間に合わせた完全下校」も全市で完了している。これらをいち早く導入できた要因を聞くと、導入当時中学校に在籍し、視察時に説明をしていただいた教育総務課の課長さんは次のように答えてくれた。  
「間違いなく教育委員会の後押しです。チーム担任制も、17時下校も、それくらいのレベルの内容は学校単一では進まない。『やる』と教育委員会がはっきり言っていただき、その上で学校に応じた調整ができるくらいが丁度良い」  
これまでに同内容で他自治体へ視察に行った際も、各所で同様の回答をいただいている。運用面では学校に裁量権や決定権を残しつつも、学校設置者として共に進むべき大きな方向は明確に示す。これこそが本来教育委員会に求められている責任ではないだろうか。
- ・チーム担任制の課題についても洗い出しをされており、成果と課題を活かすための議論はこれからと感じた。今後の南砺市の令和の教育改革に注目したい。
- ・今日の教員の「働き方改革」が問題になっており、学校運営において、チーム担任制の導入は非常に有効と考える。
- ・小規模校、義務教育学校において特に有効であると思われる。また、教員の採用一年以内の退職者0名と教員の労働環境改善にも有効と思われる。
- ・本市のチーム担任制の取組は、一部の学校で導入されているが、今後は積極的にほかの学校でもチーム担任制の導入が求められる。
- ・教員の過重労働解消も視点に入れた取り組みとなっている。学校が抱える問題をすべて解決するわけではないが、重要な取り組みだ。
- ・教員の多忙感、働き方改革、教員不足に効果はあると感じた。
- ・鳥取市では賀露小学校が実証の取組を開始しているがその効果に期待したいとともに、明らかとなった課題を改善し、時代に即した教育制度として確立していただきたい。

長野県長野市

○鳥獣被害対策とジビエ加工センターについて

- ・年間の捕獲頭数については、長野市より本市の方が多いが、長野市のような加工センターを保有していない。鳥獣被害防止とともに、ジビエを特産品として成長させることも本市の戦略的取組として可能ではないかと感じた。そのためには、需要に対する供給のバランスを担保するため長野市のような機能を強化した加工センターの設置を本市においても検討すべき内容だと感じた。
- ・ジビエの取組は中山間地域の振興に可能性があると感じる。主な施設整備の状況を資料で見ても加工センターならではのラインナップであり、常勤職員5名の配置からも長野市の意気込みが感じられた。ジビエ加工センターの見学ができず残念だった。
- ・本市にもジビエ加工センターのような施設があれば「ジビエ」(料理)も身近に感じられるようになるのではと感じた。
- ・学校給食にも「ジビエ給食」を提供するなど、先進地として大変参考になった。
- ・若年層を現在では普及のターゲットとしている。給食にもジビエを扱ってもらい、ジビエに対してプラスのイメージをつくることを大切にしている。
- ・本市における鳥獣被害は高止まりしており、今後一層の被害防止対策が求められる。
- ・今後は施設整備の対応年数や老朽化により、修繕費の増加が見込まれる。ジビエ加工事業は多くの補助金で成り立っていく事業だと思う。
- ・かつては自家処理されていたものが、量の多さから、ジビエとしての活用、減容化等の事業展開となった。今後も活用法の開拓も含めて防除による費用対効果を検証しながらの取組が求められる。